

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会  
VOC処理技術ワーキンググループ会合（第3回）  
議事要旨

1. 日時：平成20年2月7日（木）10:00～12:00
2. 場所：経団連会館 906号室
3. 議題
  - (1) 実証技術の進捗報告
  - (2) 手数料体制における実証試験について
  - (3) 実証試験要領の見直しについて
  - (4) 今後のスケジュールについて（予定）
  - (5) その他
4. 出席検討員：坂本和彦（座長）、岩崎好陽、尾形敦、土井潤一、保坂幸尚、本田城二  
欠席検討員：中杉修身
5. 配付資料
  - 資料1 平成19年度実証試験の実施状況について
  - 資料2 手数料徴収体制における実証試験のあり方
  - 資料3 中小事業所向けVOC処理技術実証試験要領の見直し方向性
  - 資料4 今年度のスケジュールについて（予定）
  - 参考資料1 平成19年度VOC処理技術ワーキンググループ会合（第2回）議事要旨
  - 参考資料2 VOC処理技術分野 拡大ワーキンググループの実施報告
  - 参考資料3 手数料徴収体制について
  - 参考資料4 これまでのニーズ調査等の整理
6. 議事

会議は公開で行われた。

  - (1) 実証技術の進捗報告
    - ・ 事務局より資料1に基づき技術実証の進捗状況について説明。
  - (2) 手数料体制における実証試験について
    - ・ 事務局より資料2に基づき手数料体制における実証試験について説明。
    - ・ 手数料の徴収時期や徴収方法について、技術開発者と実証運営機関の間での手数料支払いにかかわるトラブルを防止するための配慮が必要であろうとの指摘があった。
    - ・ 回収率の実証項目が必須とならないことはやむを得ないが、溶剤を回収できる技術が優先して普及されるべきという考えが伝わるようにした方がよいとの指摘があった。

- ・ 手数料体制においても技術開発者の応募を促すため、安価な金額でも実施できることを示していくことが適切との指摘があった。

(3) 実証試験要領の見直しについて

- ・ 事務局より、資料3に基づき実証試験要領見直し方向性について説明。
- ・ 実証試験項目のうち、通常項目は処理率のみとし、他の適宜追加される項目については、技術の種類毎に示してはどうかとの意見があった。

(4) 今後のスケジュールについて（予定）

- ・ 事務局より、資料4に基づき説明。

(5) その他

- ・ 事務局より、平成20年度以降の実証運営機関の募集を予定している旨を説明。

(文責：環境省水・大気環境局環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)